

前略

この度の東日本大震災に際しましては、いろいろご支援、お見舞いを頂きましてありがとうございます。

心からお礼を申し上げます。

1000年に1度という平安時代の貞観の大震災以来という、私たちにとっては未曾有の経験したことのない巨大地震でした。

平成23年3月11日（金）午後2時46分という時間は私達は楽しいお昼を食べて、午後からの仕事に勢が出はじめの時でした。

緊急地震速報と同時に巨大地震の襲来で、誰もが外へ出るのですが、足が思うように動かず、強風に向かって歩くような姿になり、やっとの思いで隣の駐車場に逃げました。まさに逃げるという言葉が適当のようでした。

近所のおばあさんは玄関の外に出たのはいいのですが、動けず、ドアにしがみつき、若い子供をつれたご夫婦はぶるぶると震えて、顔は青ざめ、「学校に子供を迎えにいかなくちゃ」と言ってどうにも、ケイタイ電話は通じずで、固まっている人が大勢でした。

地震は1回、2回、3回と激震が続き、横揺れで、これでもかこれでもかというふうに13分程揺れました。

その当時は5分程の揺れと発表されましたが、実は最近になって13分続き、前代未聞の揺れの長さでしたと。

余震が続く中、まず無事であることの確認をし、帰宅するのですが、ライフラインが途絶え、交通、物流インフラなども大きな打撃を受けました。

今回の震災では、死傷者や行方不明者が多数にのぼり、特に沿岸部は、想像を絶する大津波により、さながら戦争の後のような惨状を呈しております。

電気が通じて、はじめて見る映像には言葉が出ない程の驚きで、呆然としてしまいました。

ずい分前の宮城県沖地震も大きな地震でしたが、早く復興させねばと夢中でしたが、今回は休業状態が長く続き、1ヶ月がたち「サア」というところで又、震度6強という大余震に見舞われましたが、やっと立ちあがらねばと身を奮い立たせて動き出しました。

こうゆう時だからこそ、お花に接して、癒しと潤いをもたらすもとの生活に戻すことが大事です…と。

教室をはじめられて、お花をとおして皆の顔がほころんでいるのを見て、自分自身、幸せを感じました。

まだまだ余震が怖いですが、「がんばらねば…と」

「頑張ろう東北、頑張ろう日本」です。

2011年4月

プロフェッショナル・ウェディングフラワーデザイナー

佐藤 洋子